

大原台

★リニューアル
しました!

鹿児島県総合教育センター ホームページトップ画面

一教如学

鹿児島の教育の充実と振興を図ります
鹿児島県総合教育センター
Kagoshima Prefectural Institute For Education Research

トップ 調査研究 教職員研修 教育相談 教職員支援 カリキュラムセンター リンク集

トップ
お知らせ
最新情報

調査研究
研究内容・成果の提供
研究提携校の実践等

教職員研修
希望研修
悉皆研修

教育相談
電話相談
来所相談

教職員支援
研修会等への所員派遣
来所研究への支援

カリキュラムセンター
各教科等
教育資料(指導資料等)

センター案内
広報誌・リーフレット
交通アクセス等

リンク集

教育ネットかごしま
提出書類様式等
F@ceネット(つらネット)

意見・質問コーナー

より身近な
教育センターへ!

カリキュラムセンター
相談する 調べる 講座で学ぶ
調査研究

桜島や錦江湾などの文字をクリックすると、目的のページへ進むことができます。

- 各種教育相談(教職員の皆様)
(文書、電話、来所による相談)
- 所員派遣
(研修会等への派遣)
- 来所研究
(センターでの研修や研究)
- 授業研究サポート
(みんなで取り組む授業研究への支援)
- 教育資料
(各教科等)
- 各学校、教育機関の教育資料
(指導案、授業動画等)
- 研究成果
(研究紀要等)
- 悉皆研修
・経験年次研修(フレッシュ研修、ステップアップ研修等)
・職務別研修(校長研修、人権教育管理職研修等)
- 希望研修
・専門研修(短期研修、土曜講座等)
・課題研修(長期研修、継続研修)

▶ 学校楽しいと ▶ 調査研究発表会 ▶ 研修・宿泊申込 ▶ 土曜講座申込

各項目からも目的のページへ進むことができます。

お知らせ・最新情報

H25. 12. 25	NEW	平成25年度「土曜講座」の第Ⅲ期(1月~3月)を実施しております。
H25. 12. 20	NEW	「センターだより 第41号」を「広報・リーフレット」のページでご覧ください。
		「大原台」の「広報誌」の

センターからのお知らせや最新情報はこちらで確認できます。

カリキュラムセンターとは…

当教育センターの業務内容を、調査研究を基盤として、利用される先生方や保護者等の皆様の視点から「相談する」、「調べる」、「講座で学ぶ」の3つに分類しました。その中の「相談する」、「調べる」をカリキュラムセンター機能として位置付け、教育相談やその他の各種サポートを行ったり、これまで収集・整理してきた研究成果や教育資料等を提供・発信したりして、学校や教職員のニーズに応じた総合的な支援を行います。

これまでと同様に、こちらのメニューバーからも目的のページへ進むことができます。

平成25年度 調査研究発表会 報告

全体研究主題「生きる力を豊かに育てる学校教育の創造」

平成26年1月31日(金)開催



374人の参加をいただきました
ありがとうございました

全体会

プロジェクト研究

<研究主題>

「みんなで取り組み、学び合う授業研究」
の進め方



授業研究実践校との共同実践
を通じた、全教職員で取り組む
校内研修会についての発表

<参加者の感想の一部>

- ・ ワークショップ型の授業検討会は実施しているが、共通実践に生かせないという課題を抱えていたので、どのように改善すればよいか参考になった。
- ・ ファシリテーターの力量を身に付けることと授業力向上は関連が深く、改善策を考え授業に生かすことが大切だと感じた。

- ・ 教師が自分の考えたことを言語化できることが省察と言える。ワークショップの取組の中で、自分のことを語るのが楽しいと思えたことに大きな成果があった。
- ・ ファシリテーターは本来、すべての教師が担えないといけないが、今後、みんなができるようにその資質を育てていかなければならない。



鹿児島大学教育学部
高谷哲也先生

情報教育研修課

<研究主題>

情報活用能力の育成に関する研究 ～児童生徒のICT活用を通して～



児童生徒の情報活用能力の
育成と、教職員によるICT活
用指導力向上に関する発表

<参加者の感想の一部>

- ・ 現状のICT環境の中で、ICTをどのように使っているかの具体例が参考になった。
- ・ ICT活用に向けた環境整備と、教員の指導力向上が必要であると感じた。

- ・ 児童生徒にICTを活用させるためには、教室環境や教員の意識が変わることが大切である。
- ・ 情報活用能力育成を意識した授業づくりを進めていただきたい。
- ・ ICT活用のための環境が整うのはなかなか難しい面があるが教員が活用することで「児童生徒の興味・関心を高め」、「課題を明確につかませ」、「分かりやすくまとめる」ことができる。



鹿児島大学教育学部
森下孟先生

特別支援教育研修課

<研究主題>

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究

～知的障害のある児童生徒のpdcaサイクルに基づいた授業づくりを目指して～



知的障害のある児童生徒に
対する一貫性・系統性のある
指導の在り方についての発表

<参加者の感想の一部>

- ・ 教師が当たり前に行っている声掛けやKR情報の分析も必要であることが納得できた。
- ・ 実物（ボール）を使うといった工夫あるプレゼンにも感動した。

- ・ 今、特別支援学校に求められているものは「センター化の問題」と「特別支援学校の存在意義の確立」である。この2点を解決するのが、特別支援学校における授業改善である。
- ・ 今回の研究は、以上の課題についてPDCAやpdcaという概念を使って取り組んできた。このことは、国際的な状況からも正しい方向である。



鹿児島大学教育学部
肥後祥治先生

教職研修課

<研究主題>

教職員のニーズを踏まえた効果的・効率的な研修の構築に関する研究Ⅱ

～フレッシュ研修における学校での指導体制の在り方～



フレッシュ研修を実施している学校の状況や実施上の課題等と効果的な校内指導体制についての報告

<参加者の感想の一部>

- ・ フレッシュ研修は学校ぐるみで組織的に指導していくことが大切であると痛感した。
- ・ 継続しての研修が重要だと再認識した。
- ・ とても分かりやすい報告で、熱意のあるプレゼンだった。

分科会

分科会名	教科等	研究主題等
第1分科会	国語科	「学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成に関する研究」 ～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～
第2分科会	社会・地歴・公民科	教科等における思考力・判断力・表現力の継続的な育成に関して、学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定による効果的・効率的な指導と評価の工夫について協議しました。
第3分科会	算数・数学科	
第4分科会	理科	
第5分科会	外国語活動・外国語科	
第6分科会	情報教育	「情報活用能力の育成に関する研究」 ～児童生徒のICT活用を通して～ 各学校段階における事例発表を通して、児童生徒に情報活用能力を身に付けさせるためのICTを活用した指導方法等について協議しました。
第7分科会	特別支援教育	「特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究」 ～知的障害のある児童生徒のpdcaサイクルに基づいた授業づくりを目指して～ 知的障害のある児童生徒への一貫性・系統性のある指導について現状と課題を明らかにするとともに、指導の充実を図るための授業づくりの工夫について協議しました。
第8分科会	教育相談	「不登校の未然防止と支援の在り方に関する研究」 ～『学校楽しいーと』等を活用した児童生徒への対応～ 不登校の現状や課題及び未然防止の取組について、実態を明らかにするとともに、「学校楽しいーと」等を活用した一貫性・系統性のある指導の充実を図るための方策について協議しました。



- ・ 「判断基準」はぜひ使ってみようと思った。系統的、かつ重点的に指導し、評価がしっかりできることは大切だ。
- ・ 「判断基準」の明確化が教師側の見取りにも役立つ、生徒が思考を整理するのにも役立つと思った。
- ・ 多くの先生方が、学校に戻って実践してみたいと話されていた。(第1～第5分科会)

参加者の感想の一部

- ・ 児童のICT活用がなかなかできていなかったので実践例を参考に取組みたい。(第6分科会)
- ・ 実践校の具体的な取組を聞くことができよかった。学校で伝えたい。(第7分科会)
- ・ 事例発表がとても参考になった。今後「学校楽しいーと」を有効に活用したい。(第8分科会)

平成25年度 長期研修研究発表会 報告

平成26年2月27日(木)開催

学校名	氏名	教科等	研究主題
霧島市立大田小学校	中山 譲二	特別活動	共感的な人間関係を築く学級活動の在り方 ～思いや考えをよりよく伝え、認め合う活動の充実を通して～
県立武岡台養護学校	吉村 美妃	特別支援教育(中・国語)	知的障害のある生徒の「伝え合力」を高める指導の在り方 ～関わり合う活動に視点を当てた中学部国語科における「聞く・話す」の指導を通して～
肝付町立内之浦小学校	牛垣 尚子	特別支援教育(小・算数)	特別な教育的支援を必要とする児童への学習指導の在り方 ～分かる喜びを味わえる授業を目指して～
曾於市立財部小学校	木原 晋	算数	考えを広げ、深める児童を育てる算数学習指導の在り方 ～考えを明確な視点で比較検討する活動を通して～
県立鹿児島工業高等学校	嶺崎 明夫	工業	アイデア創出の手法を取り入れた学習指導の在り方 ～創造的な考え方や態度の育成を目指して～
湧水町立栗野中学校	久米田 晃子	理科	生徒が自ら考察する理科学習指導の在り方 ～目的意識をもって観察、実験に取り組みせる工夫を通して～
枕崎市立立神小学校	中村 勝也	社会	社会的現象の意味を捉えさせる社会科学習指導の在り方 ～思考の方法を生かした指導の工夫を通して～
鹿児島市立南中学校	山口 修二	社会	主体的に課題を追究させる社会科学習指導の在り方 ～歴史的分野における、「気付き」を生かした指導の工夫を通して～
鹿児島市立春山小学校	永田 洋一	国語	伝え合力を活用して読む能力を育成する国語学習指導の在り方 ～説明的文章を教材とする単元の指導を通して～
長島町立田尻小学校	長谷部 勇太	国語	文学的文章を主体的に読む国語学習指導の在り方 ～小規模校の利点を生かした言語活動の具体化を図る指導を通して～
県立鹿屋高等学校	前田 寛明	国語	「国語総合」における古典(古文)を主体的に読む能力を育成する学習指導の在り方 ～文語のきまりに関する基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動を通して～

特に研究当初は、本当に成果を出し、まとめることができるか、具体的な実践につなげることができるかと、不安と同時に自問自答の日々でした。
しかし、日々の研究や教育センター研究主事の御指導、検討会等を通して、課題を真正面から見据え、一つ一つ解決していくことができたと感じます。
これから、私たちが児童生徒の課題解決に向けて一人一人の実態に応じて寄り添うような教育活動を展開していきたいと思っています。

長期研修者の声

研究を通して、目の前にいる児童生徒のために、教職員みんなが同じ方向を見据えて教育活動を行うことが大切であることを学ぶことができました。
学校を離れて1年間教育センターで学ぶことができ、また違う角度から教育の可能性について考えることができたと思います。この研修は、自身の教師としての資質だけではなく人間としての資質も成長させることができたと感じています。
ここで得たことを、今度は授業において具現化し、未来を担う児童生徒のために還元していきたいです。

- (1) 研究主題についての基本的な考え方
- (2) 国語科学習・小規模校における指導上の課題
- (3) 文学的文章を自ら読んで読み進め、自分の考えや思いをもち、それらを広げ深める指導法
- (4) 小規模校の利点を生かした言語活動と指導の在り方
- (5) 検証授業を通じた研究の成果と課題

プロジェクター操作などの運営も長期研修者が行いました。

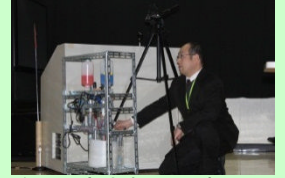
多くの参加者のもとで、1年間の研究の成果を発表しました。



継続研修発表会・修了式

平成26年2月7日(金)

コース	所属	氏名	発表テーマ
情報システムコース	鹿児島水産高等学校	逆瀬川 学	回転型パーサライタの製作とPICマイコンによる制御
	薩南工業高等学校	江崎 克芳	人体感知センサによる機器制御
	川内商工高等学校	坂下 拓郎	低圧屋内配線の電流のクランプセンサとPICマイコンによる制御
	加治木工業高等学校	荒殿 信哉	R8Cマイコンを用いた中和反応槽の制御
	隼人工業高等学校	安田 千尋	PICによるライトレーサカーの制御
	鹿屋工業高等学校	若松 俊成	Arduinoを使ったLED制御
情報コンテンツコース	鹿児島南高等学校	前野 剛	データベースソフトを利用した生徒学籍情報データの作成
	川内商工高等学校	鈴木 秀司	2クラス用クラス編成(調整)ソフトの開発
	鹿児島商業高等学校	有川 修治	マクロ・VBAを活用した情報処理用語学習ソフトの作成
	出水商業高等学校	北 正博	生徒が、毎日の学校生活をよりよい心理状態で過ごすためのソフトの開発
	国分中央高等学校	東 由里絵	EDIUSによる学科紹介映像作成



製作物も操作するなど、工夫された発表

今回学んだ知識を生かし、ものづくりの楽しさを生徒へ伝えていきたい。

研修者の感想

教育の情報化の推進を図り、創意工夫しながら実践的指導力の向上を心掛けていきたい。



1年間の研修を修了

県立出水養護学校研究公開

平成26年2月14日(金)

<研究主題>

子ども一人一人の自立と社会参加に向けた指導方法の研究
—子どもの実態に応じた効果的な指導の実践的研究を通して—



多くの参加者のもとに開かれた全体会



児童生徒一人一人の実態に応じた指導が展開された公開授業



活発な意見が交わされた分科会



福岡大学 徳永豊教授による講演

「心にしみる言葉」
次長兼研修部長 室屋 賢二

私たちに多くの感動を与えた冬季ソチオリンピックが幕を閉じた。振り返れば、メダリストの栄光の瞬間に歓喜し、その後のテレビの特集でこれまでの努力の様子をあらためて知って「やはりすごい努力があったのだ」ともう一度感嘆する毎日であった。

一方、努力の結果が、常に夢を叶えるとは限らないという厳しさもオリンピックが教えてくれた。期待されながらも力を出し切れず、インタビューに答える選手言葉を聞くことは辛かった。

そんな中に、今でも強く心に残っている言葉がある。メダルを逃し、悲しみの真ただ中にある試合直後の選手にインタビューしたアナウンサーの言葉だった。

アナウンサーは、いくつかの質問をした後、感謝の気持ちと無念さを述べる選手に「これからもみなさんが応援しますね。」と励まし、最後に「よく頑張りましたね。」という言葉でインタビューを締めくくった。その言葉に無言ではあったが、頷く選手の姿を見たときに「心にしみる思いやりのある言葉」であると思った。

学校においても、卒業、修了と一年の締めくくりの月である三月を迎えた。先生方と子どもたちの一生懸命の努力で、多くの子どもたちが目標を達成できたと思うが努力をしたにもかかわらず結果を出せなかった子どもたちもいたことである。

そんな時、「よく頑張りましたね。」という言葉は、結果が出た人にも結果が出なかった人にもその努力を認め、労をねぎらい、より元氣を出させる思いやりにあふれた言葉であると思う。この一年の締めくくりに三月にこそ、どの子どもたちにもそして、大人たちにも声をかけた言葉である。

私たち総合教育センターにおいても一年の最後の締めくくりの月を迎え、現在、ウェブページのトップページを変更をし、百三十三の短期講座をはじめ多くの講座の準備を進めている。

もうすぐ、新しい年度が始まる。入学、進級した子どもたちが、来年の今頃、それぞれの目標を達成し「心にしみる言葉」を共有できるようにセンターとしても先生方を全力で支援して参りたい。多くの先生方の来所をお待ちしている。